

## 温暖化と動物達

近年、温暖化が進み、多くの動物が絶滅の危機に直面している。ホッキョクグマはその典型的な例である。北極の氷が減少し、溶けるのも早くなったことが食糧確保や繁殖に影響が及びその数が少なくなっているのだ。この水環境による動物達の問題を改善するには、人々の普段の生活内での変化が必要である。そして実行するためには、変化をもたらすには自分の小さな行動がどれだけ大きな変化をもたらすかを理解することが重要だ。

今年一月、映画「アース」が公開された。これは地球上に住む様々な動物たち、象や鯨、鳥類などの生き方をうつしだしたドキュメンタリー映画である。私は一月の終わりに観にいったのだが、これが今回のレポートで「温暖化と動物達」の問題をテーマにする大きなきっかけとなった。温暖化が進んでいること、地球環境の変化が動物達に影響を及ぼしていること、人間がこれらの状況改善のために行動を起こすことが必要であることなどは、映画を観る前から知っていたのだが、知っているというだけで実感としてはなかなか沸いてこず、自分の生活にも何の変化もないまま進んでいた。しかし、私の地球で起きていることに対する曖昧なイメージは、映画の最後に出てきたメッセージにより、それまでよりはっきりしたもの変わった。それは「このままの状況が続くと、ホッキョクグマは2030年までに絶滅する」という一文だったのだが、2030年という非常に近いタイムリミットをつきつけられ、ショックを受けるとともに、温暖化の問題が一気に自分に近付いたように感じたのだ。やけに温かい日が続き、まだ2月なのに梅の花まで咲いてしまっている今、私たちは何ができるだろうか。

北極は、温暖化の影響をもっとも強く受ける地域だとされている。この100年で北極の気温は5度上昇し、1950年の時点で約1300万平方キロメートルあった海を覆う氷の面積は、この10年で約250万平方キロメートル減少、2007年には425.5万平方キロメートルというこれまでに最小の海氷面積となった。そして、この北極の変化の影響をもっとも受けるのがホッキョクグマである。2006年、ホッキョクグマは国際自然保護連合（IUCN）により絶滅危急種とされ、レッドリストに掲載された。ホッキョクグマにとって、氷は生きていくのになくってはならないものだ。彼らは主食であるアザラシの狩りを氷上で行う。泳いでいるアザラシが氷の穴から呼吸するのを待ち伏せするのだ。特に、メスのホッキョクグマは初秋に獲物をとる必要がある。彼らは秋から春にかけて、雪にほった穴の中で子供をうむのだが、その前に十分な脂肪を蓄え、出産の間は何も食べずにその脂肪だけで乗り切るのだ。氷がなければ狩りができず、生き延びるのは難しい。また、獲物が取れそうな氷を探して泳いでいるうちに溺れてしまうこともある。このように、温暖化により氷の面積が減少しとけるスピードが速くなることは、食料を得られる期

間と場所が減るだけでなく、繁殖にも影響がおよび、ホッキョクグマの数は年々少なくなっているのだ。

このような温暖化現象は、ホッキョクグマだけでなく他の様々な動物達に影響を及ぼしている。カナダのセントローレンス湾では、タテゴトアザラシが流氷の上で出産を行うのだが、2007年にその子供たちの命が危険にさらされた。タテゴトアザラシは子供が生まれてから2週間しか子育てをせず、その後は湾内の流氷が子供たちの群れを乗せて運ぶ。4月頃に流氷が溶け始めることによってタテゴトアザラシの子供たちは泳ぎを覚えるのだ。毎年約20万頭のアザラシが誕生するのだが、2007年は早く氷が溶け出してしまい、まだ泳ぎを覚えていない10万頭以上の子供たちにとって絶望的な状況となった。また、南極ペンギンの雛たちも永久凍土が溶け始めて危ない状態である。ウミガメは海水温がある一定温度より高くなるとメスが生まれる確立が高くなり、繁殖に影響が出る。ヒマラヤ氷河の減少は、ジャイアントパンダの生息地である長江流域に洪水や水不足による生態系の破壊をもたらす。このように温暖化による海面上昇や水温上昇のために絶滅する可能性のある動物はたくさんいる。この100年で地球の温度は0.74度上昇した。温暖化が4度を超えると、最大で全生物の40%が絶滅に危機にさらされるともいわれているのだ。人間も例外ではない。近年、世界各地で頻発している異常気象により、多くの人が命をおとしている。2003年には熱波がヨーロッパを襲い、気温が40度を超えた。また2005年には、アメリカ東南部でハリケーン、カトリーナが多大な被害をもたらした。依然はっきりとした根拠はないものの、多くの科学者はこのような現象を温暖化によるものと考えている。

このような状況を少しでも改善するために、私たちにはなにができるのか。サイエンスマガジン、Newtonによると、企業などではCO2排出削減のための対策が行われ始めているが、家庭やオフィスなどではCO2排出量は少なくなるどころか、増えているということだ。企業にとってはCO2を減らしていくことが利益に結びつくのに対し、家庭などに対してははっきりした目標が提示されていないため、人々が何をすべきなのかわからないというのが原因となっていると考えられている。私の生活をみると、まさにその通りである。自分のライフスタイルに何かしらの変化が必要なのはわかっているのだが、ただ漠然とそれを感じているだけで、何をどう変えれば何がかわるのかという知識や具体的なイメージを持っていないのだ。そこでNewtonは、まずは「自分の生活の何からどれくらい二酸化炭素が排出されているのかを知ること」からはじめ、次に、「一人一人が6%削減を目指して削減プランをつくり、実行すること」を提案している。また、日本人一人ひとりが一日1キログラムのCO2を削減できると、年間約4700万トンのCO2削減に繋がるということだ。これは個人のわずかな意識の変化により実現できるものである。たとえば、ゴミの分別により52グラム、シャワーを流す時間を一分短くすれば74グラム、エンジンのアイドリングを5分ストップすると42グラムのCO2削減が可能なのだ。

海外の絶滅危惧種に関するウェブサイトにも、公共の交通機関を使うこと、電気をこまめに消すことなど、普段の生活範囲内で起こせる小さな行動をよびかけている。つまり一番大事なのは、人々がわずかな変化がどれだけ大きな結果をもたらすことができるかを知ることなのだ。もちろん、これまで書いてきたような小さな変化というのは今までさんざん言われてきたことなので、人々はそんなことはわかっているというかもしれない。しかし、環境問題が大きな問題として取り上げられるようになってからも、大きな社会の変化はみられないように感じる。自然保護や動物保護の団体がプロジェクトを組み実行しているが、日々の生活では毎日大量のペットボトルが生産、消費、廃棄されているし、新しい高層ビルやマンションが次々と建設され、雑貨など、必ずしも生活に必要でないものも溢れている。これ以上他の生物たちを犠牲にしないためには、今私たちが普通だと思っ  
てすごしている毎日が、地球にとっては普通でないことに気が付く必要がある。温暖化による動物達へのダメージを「知っている」人たちは多くいるだろうが、もう一歩進んで「わかる」ようにならなければ、自分たちの行動の変化が早急に求められていると実感するのは難しいだろう。映画「アース」のように、タイムリミットを提示することも、人々が動物達の危機を実感できる一つの方法かもしれない。

<参考>

プラネットアース 8 南極ペンギン

Newton 別冊 この真実を知るために 地球温暖化、監修：西岡 秀三

しろくま、ホッキョクグマは、世界の絶滅危惧種、希少動物 <

[http://www.polarbearc.com/kouza/kouza\\_9.html](http://www.polarbearc.com/kouza/kouza_9.html)>

Endangered Species And What We Can Do To Help

<[http://www.geocities.com/jaclynboswell2000/Endangered\\_Species.html](http://www.geocities.com/jaclynboswell2000/Endangered_Species.html)>